研修施設認定

◆日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度研修施設（基幹施設）
◆日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設（暫定施設）
◆日本医療薬学会がん専門薬剤師制度研修施設（基幹施設 2022 年月～）
◆日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度研修施設（基幹施設，次年度申請予定）
◆薬学生長期実務実習受け入れ施設

薬剤部門の基本的方針

◆安全で安心できる薬物療法を提供する
◆治験・臨床研究サポートを推進する
◆学生および職員に対する教育・育成・医療薬学研究等の学術活動を推進する
◆地域社会の医療活動・薬事衛生活動に寄与する
◆健全な病院経営へ寄与する

薬剤部門業務の概要

薬剤部の運営は、24 名の職員（薬剤助手７名、薬剤師９名、主任６名、副薬剤部長１名、薬剤部長１名）で行っています。

担う業務は、中央業務である医薬品の管理・供給、調剤、院内製剤、抗がん剤の無菌調製、マスに対する DI に加えて、患者個別にサービスとなる，TDM による投与設計、個別 DI、入院・外来患者への服薬指導、手術等のための入院前患者支援，病棟薬剤業務（持参薬含めた入院時服薬計画処方支援、検査支援、総合処方監査、投与ルートチェック、副作用モニタ、医薬品副作用被害救済制度申請の支援など)、臨床研究・治験のサポートなど医療の本質である対人業務を行っています。これら業務のうち，対物的業務である医薬品のピッキング，錠剤の一包化パックからの抜錠，持参薬の鑑別の下準備，注文，払い出し等のほぼ全てを薬剤師の監督下で薬剤助手が行い，薬剤師が患者ケアに注力できる環境の整備を鋭意進めております。

加えて、NST、ICT、AST、緩和、RST、褥瘡などの医療チームでの活動、患者さん向けの各種教室，医療安活動のほか院内各種委員会で活動しています。

保険薬局を含めた医療施設と協働・連携した医療サービスを提供するために、当院外来でがん化学療法を受けている患者さんに対しては、当院薬剤師から「外来化学療法薬剤管理情報提供書」を交付しています。ホームページで公開しているがん薬物療法レジメン情報と合わせて薬物療法の協働管理を進めております。

入院治療を受けた患者さんには、「薬剤管理サマリー」を患者さん同意のもと文書により交付しております。これにより入院治療に引き続いて外来薬物療法においても，

病院の医師と保険薬局等薬剤師が単に分担するのではなく，協働して連携することを進めています。

教育・育成活動

実務実習指導薬剤師の在籍の下、毎年 4-7 名の薬学部長期実務実習生を受け入れています。実習内容は、コアカリキュラムに準拠した上で、必要、状況に応じて医師を含めた他の医療職の体験型実習も取り入れています。

また、当部門には医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師２名，がん専門薬剤師・指導薬剤師１名が在職しており，日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度研修施設（申請中)、がん専門薬剤師制度研修施設（次年度申請予定)、薬物療法専門薬剤師制度研修施設（次年度申請予定)，日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設（申請中）の認定が今年度から次年度中が見込まれており、認定・専門薬剤師の育成に取り組んでいます。

毎年、全国規模の各種学会・病院薬剤師会・国立病院機構主催の県内外の研修会、研究会、学術集会などへ職員を派遣して技術研鑽の機会を設けています。

さらに、国立病院機構九州グループ病院の特徴的な研修として、入職後５年目くらいまでの薬剤師を対象として、グループ内の勤務先外の施設へ 3-5 日間派遣し、業務を経験する特定技能派遣研修があります。そして、これのアドバンストコースの位置づけとなる、主任薬剤師までを対象とした交換研修も行っています。この研修では、急性期病院―療養型病院に勤務する薬剤師を互いに交換して、２週間それぞれの施設で薬剤師として勤務し研修を行います。これら研修では、勤務先以外の薬剤師との意見交換・交流を通しての人的ネットワークを広げることに加え、勤務施設とは異なる性格の病院で求められる業務・環境を「仕事」として経験することにより、医療人として求められる視野を広げることと、その後の進路や専門性を考える上での効果が期待されます。

学術活動

当部門では日常業務の改善や得られた疑問に根ざした研究の実施を進めております。毎年，全国規模の医療薬学，臨床医学関連の学会，そして国内・国際誌での論文として公表しています。学会参加のための旅費，論文掲載にかかる費用等は病院として支援されます。

□2020 年度学会発表

第 30 回日本医療薬学会年会（web 開催）

・新規がん化学療法導入患者の HBV スクリーニングに関する PBPM 効果

鈴木寛人、築田晃直、平田亮介、上原智博、仲本敦、河崎英範、渡嘉敷崇、山形 真一

・医療用医薬品添付文書における製剤の徐放性の示し方に関する調査-徐放性製剤による事故を防ぐために

長谷部歩、山形真一

・髄膜炎時のバンコマイシンの髄液移行率を推察するための指標に関する考察-症例報告

山形真一、狩野亘平、白澤宏美、原田正公、鶴崎泰史、中川義浩

・婦人科 TC 療法における末梢神経障害に対するミロガバリンの有効性と安全性の検討

永光華菜、谷口潤、尾之江剛樹

・ラムシルマブ・パクリタキセル併用療法における 投与中の血圧推移と治療効果の関連性

森田真樹子、鳥山陽子、松尾圭祐、江崎瞳、谷口潤、尾之江剛樹

・末期心不全患者に対するモルヒネの使用状況調査

高城沙也香、鳥山陽子、江崎瞳、松尾圭祐、永石浩貴、谷口潤、尾之江剛樹

・院外処方箋への臨床検査値記載による有用性の検討

吉永光辰、迫田英樹、谷口潤、尾之江剛樹

・悪性リンパ腫治療による B 型肝炎ウィルス再活性化に対するテノホビルアラフェナミドの有効性と安全性の検討

谷口潤、松尾圭祐、尾之江剛樹、櫻井一宏

・Cetuximab 投与時の低 Mg 血症に PPI が及ぼす影響の検討

谷本憲哉、尾之江剛樹、谷口潤、松尾圭祐、迫田英樹、永石浩貴

・頭頸部癌 CCRT における CDDP 投与状況調査と投与量に関する検討

松尾圭祐、鳥山陽子、森田真樹子、馬場華菜、永石浩貴、谷口潤、尾之江剛樹

・セファゾリン供給停止による微生物の薬剤感受性率および心臓血管外科の手術部位感染への影響

迫田英樹、馬場華菜、栗脇千春、山下正二、山口俊

第 74 回国立病院総合医学会（web 開催）

・irAE マネジメント強化に向けた施設間連携への取り組み～KISNet(鹿児島がん免疫療法サポートネットワーク)活動報告～

松尾圭祐、谷口潤、尾之江剛樹、松下茂人

・高齢者の不眠時頓服薬使用時のせん妄発症率についての調査

今村聖奈、谷口潤、尾之江剛樹

・肺癌治療 DTX+RAM 使用時の G-CSF 投与に関する医療経済学的検討

鈴木 寛人, 築田 晃直, 山形 真一

第 35 回日本臨床栄養代謝学会（京都）

・当院の高催吐性リスクレジメンにおける制吐剤の妥当性の検討

鈴木寛人、中嶋慎太郎、平田亮介、山形真一

□2020 年度掲載論文

・鳥山陽子、森田真樹子、松尾圭祐、江崎瞳、谷口潤、尾之江剛樹：ラムシルマブとパクリタキセル併用療法における投与中の血圧異常の実態調査，および効果予測因子としての検討

日本病院薬剤師会雑誌，57, 93 (2021)

・鶴﨑泰史，山形真一，中川義浩：院外処方箋における疑義に関する事前合意プロトコル運用の効果に対する評価

日本医療マネジメント学会雑誌, 21, 141 （2020）

□2020 その他の講演等

・松尾圭祐：患者個々の治療を理解し、一歩踏み込んだ患者指導に繋げる～より充実した薬薬連携の実践を目指して～

第 39 回がん薬物療法対策講習会(主催：鹿児島県病院薬剤師会研修会)

・谷口潤：経口抗がん剤の副作用対策と薬剤師の関わり

消化器がん化学療法セミナー(主催：大鵬薬品工業株式会社)

□社会的活動

第７回 国立病院機構 鹿児島医療センター市民講座

がん患者に対する薬剤師の役割

谷本憲哉（2020 年１０月）